

阿蘇シンポジウム感想文

[生命科学科2年生]

7月末に阿蘇シンポジウムに参加させていただきました。まだ専門科目の勉強が本格的に始まったばかりということもあり、講演の内容はかなり難しく感じたのですが、インフルエンザウイルスやE型肝炎ウイルスの構造や作用機序などはとてもおもしろかったです。またシンポジウムの後の懇親会では他大学の先生方や製薬会社で研究をされておられる方など、普段ではなかなかお話をさせていただく機会もないような先生方が気さくに声をかけてくださって感動しました。

第一線で研究を続けておられる先生方のお話を伺うことでたくさんの刺激を受け、自分の将来について深く考えるきっかけを与えていただきました。

またこのような機会があれば参加したいと思います。(A.I)

自分が阿蘇シンポジウムに参加しようと思ったのは、今回の参加を今後積極的に研究室への訪問やその他、課外活動に参加するきっかけにしたかったからです。

シンポジウムの講義内容はとても難しく今の自分では、ほんのわずかしら理解できませんでしたが、先端の研究成果に触れることができ、とても貴重な体験となりました。難しいながらも興味がわいたのは「ウイルス」についての講義でした。たとえば、インフルエンザウイルスのRNAは分節に分かれている、といった基本的なことでも自分にとっては新鮮で好奇心をくすぐられました。また、懇親会では先端の研究をなさる先生方と直接お話することもでき、日常では叶わないような貴重な機会を与えていただきました。今年のシンポジウムでは自分の知識量が全く及ばず、お話を理解することさえ満足にできませんでした。来年はより有意義にシンポジウムに参加できるように色々なことを学んでいきたいと思っています。

(T.O)

阿蘇シンポジウムへは、免疫に興味を持っていたので参加しました。内容は難しかったですが、どれも面白い話ばかりでした。「ウイルス粒子形成機構」の話では、選択的パッケージングで8本のゲノムRNAが取り込まれる様子を、電子顕微鏡写真を見ながら分かりやすく説明していただき、良く理解することができました。また「インフルエンザのRNAポリメラーゼ」の話では、RNAポリメラーゼの3つのサブユニット間の相互作用阻害により、インフルエンザに対する新薬の開発が期待されることが分かりました。

今回のテーマである「構造生物学」というものを今までよく知りませんでした。しかし構造を解析することは、受容体の結合やウイルスの侵入機構を明らかにする、といった点で免疫学においても重要であり、さらに新薬の開発など臨床的なことにもつながっていくのだと分かりました。

夜の懇親会では、他大学の先生とお話することができました。先生方の研究室のことを伺い、様々なメッセージをいただきました。非常に刺激になり、もっと勉強をして経験を積みたいと思いました。今回阿蘇シンポジウムに参加でき、とてもよい経験になりました。来年もぜひ参加したいと思います。(A.K)

今回の阿蘇シンポジウムには、特に自分の興味のあるテーマはありませんでしたが、最先端の研究を行っている研究者の雰囲気を感じとり、自分の視野を広げるために参加しました。発表の内容は今の自分にはとても難しく、事前の勉強会ではとてもカバーしきれていませんでした。発表もさることながら、その後のディスカッションの時間にも専門用語が飛び交い、自分には見ているしかできませんでした。生命科学科にしながら、自分にはその知識がほとんどないことがとても悔しいですが、今回このことを実感できただけでも収穫があったと思います。この阿蘇シンポジウムはこれからの学習意欲向上に大いに役立ちそうです。また、今まで知らなかった、興味のなかった分野に目を向けることができ、確実に視野は広がりました。今回のシンポジウムは二年生にとっては日程的に厳しいものでしたが、参加できよかったです。(Y.S)

今回初めてシンポジウムに参加させて頂いて様々なことを学ぶことができました。講演の内容は今の私にとっては難しく、あまり理解することはできませんでしたが、どういう研究が行われているのかを知ることができて、今回のテーマの分野にも興味を持つことができました。また、1日目の夜の親睦会では、講演者の方々に研究に関するお話をお聞きすることができ、とても貴重な経験ができました。まだ私は知識が不十分ですが、こういう機会を活用しているんな分野の研究に触れてみたいと思いました。来年は今年よりも理解できるように1年間頑張りたいと思います。(R.N)

[生命科学科3年生]

今年の阿蘇シンポジウムはテーマが感染症や構造生物学だったので、初めは上手くイメージが掴めませんでした。しかし、実際に講演を伺うと、確かに分からない部分は多々ありましたが、もともと構造や画像が好きだったこともあって予想以上に楽しむことができました。また、昨年と同様にもっと深く考えてみたいと思える内容にも出会うことができ、得られるものがあってよかったと思います。来年は大学院の入学試験の時期とも重なり参加することが難しいと思いますが、機会があればこれからも参加したいですし、ディスカッションにおいて演者の方にも有意義な発言をできるように勉強を積んでいこうと思います。(A.K)

今回の阿蘇シンポジウムのテーマ「感染症と免疫の構造生物学」は私にとってあまり馴染みのないものでした。ウイルスの侵入や免疫反応などに関わる機構を、その分子構造から明らかにし、最終的に医療に役立てるのを目的とするものです。10のマイナス何乗もの微小な構造を高度な技術と試行錯誤の実験で明らかにしていく点は、私には新鮮で非常に興味深く感じられました。

もう一つ私の印象に残ったのは、先生方のプレゼンテーションの仕方です。簡潔で、私たちを飽きさせないような工夫を加えつつ、割り当てられた時間内に終わるという三点は全ての先生に当てはまりました。先日研究室配属でプレゼンをした私にとって、これらの点はまだまだ遠い目標です。しかし生命科学科の学生として、この点をクリア出来るように経験を積みみたいと感じました。

今回のシンポジウムでは、今までのように先生の話をつき聞くとするのではなく、将来は自分も同じ場所に立つのだという新たな目線でプレゼンを見ることができ、大変有意義な経験となりました。(M.S)

前回は引き続き、今回も阿蘇シンポジウムに参加させて頂きました。今回のテーマは感染と免疫の構造生物学ということで、全体的に構造学が基本であったように思いました。

シンポジウム内容としては、構造学を基本とし、その構造を調べるための手法・また、それが分かった事による医学的な利用応用といったものが主でした。中にはまだ研究中であり、単にレセプターとの結合部位やポケット構造であり、そこに因子が入り込むという事実が分かったのみで、応用の段階までには至っていないものが含まれていましたが、どれも将来的には何かに利用できる可能性を秘めたものであるように思えました。また、テーマが専門的であり、独自の事前勉強会では、補いきれなかったものが多かったですが、専門外の先生方も積極的にディスカッションをされ、学生の方からも自分を含め4回も質問できた事から、プレゼンターの先生方の説明が分かりやすく、シンポジウムそのものがレベルの高いものであったことが伺えました。

その後の懇親会も和やかな雰囲気で行われ、楽しみながらも討論が出来るという素晴らしいものであったと思います。来年度は大学院の入学試験の関係で参加する事は出来ないと思いますが、今回は私の学部学生時代最後に参加する阿蘇シンポジウムとしてとても意義のあるものであったと思います。

最後になりましたが、今回のシンポジウムに私共参加するに当たって、お世話になった方々にお礼の言葉を載せて、私の感想文を終わります。ありがとうございました。(Y.T)

昨年につき2度目の阿蘇シンポジウムに参加させていただきました。今年のテーマは「感染症と免疫の構造生物学」。生命科学科の2年後期カリキュラムに含まれる「生命科学概論」で神田教授から講義していただいたこともあり、「構造生物学」の大まかなイメージはわかっているつもりでした。しかし実際には研究内容は多岐にわたり、研究の奥深さを改めて実感しました。私自身の知識不足を痛感するとともに、今後も授業等で学ぶ基礎を大切にしていきたいと思います。(T.T)

7月30日、31日に開催された阿蘇シンポジウム。私にとって人生初のシンポジウム参加となった今回のテーマは、「感染症と免疫の構造生物学」であった。2年生の後期で行われた生命科学概論の構造生物学、ウイルス学、また3年前期の免疫学で習った知識でどこまで理解できるのか、また学会、シンポジウムとはどういうものなのかを実際に見てみたくて今回のシンポジウム参加を決めた。広いきれいな会場で行われたシンポジウムは一流の先生方の研究を聞くことができ、また終始白熱した議論が行われ、研究者の世界というものを少し垣間見ることができたように感じた。各先生方のお話は、私の知識を総動員してもなかなか理解するには難しく、勉強の足りなさを痛感した。しかし、北海道大学の稲垣冬彦先生のインターフェロン産生系の構造生物学は、つい先日まで行われた早期研究室配属の実験で行った、ミトコンドリアを介した自然免疫学に関連していて少々理解できたし、また研究の勉強になった。一日目終了後の懇親会では、先生方がおいしい料理を食べながら、情報交換している様子が印象的であった。このようにして共同研究や、また研究室間の競争につながっていくのだろうかと感じた。

今回のシンポジウム参加は私にとってとても充実したものであった。残念なことは基礎知識が乏しくなかなか理解ができなかったこと、またそのせいで議論に参加できなかったことである。次回このような会に参加するときはもっと勉強して臨みたいと思う。(Y.H)

昨年引き続き阿蘇シンポジウムに参加しましたが、単なるオブザーバーの一人でしかなかった昨年と異なり、今年は自分の疑問点を積極的に講演者の先生方にぶつけることで積極的に参加することが出来たように思います。この一年間で自分がある程度力をつけた事を実感する意味もあり、感慨深いものがありました。一学部生の身でありながらあのような伝統のある席に参加させていただいた事に感謝したいと思います。

また懇親会の席では九大にゆかりのある先生方と食事を楽しみながら交流する機会があり、他大学の先生方ともお酒を酌み交わし親睦を深める事が出来ました。研究の話だけに留まらず、政治や経済など世の中の話や人生のあり方など多岐に渡る話に花を開かせ、とても楽しい一時を過ごさせていただきました。またこのような機会を頂けることを心待ちにしております。(K.M)